

山梨県立あさひワークホーム

令和元年度 事業報告

協会が策定した「第四次中期経営計画」（平成29年度～令和3年度）に基づき、実施事業である就労移行支援、就労継続支援及び生活介護支援において、より質の高いサービスを提供した。

就労移行支援事業は、利用者が作業を通し社会人としての職場マナーや心構えを学ぶとともに就労に対する意欲の向上を図る支援を行った。また、ハローワークや就業・支援センターとの連携のもと企業等の協力を得て、利用者に施設外実習を提供した。

就労継続支援事業は、山梨県の月平均工賃支給額の15,000円を目標に生産活動を行ってきたが、協力企業の大手一社が吸収合併されたことにより、生産量が伸びず県平均工賃には及ばなかった。今後も引き続き単価の高い効率的な作業種目の開拓や新たな自主製品の開発等に努め、目標工賃達成に向け努力する。

生活介護支援事業は、日中活動として生産活動の他、菜園での季節野菜の栽培や運動訓練を兼ねた外出等により、四季の移り変わりを体感していただいた。衛生面では建物内の除菌清掃等を毎日実施することで感染症対策に万全を期した。また、週2回作業療法士により、日常生活をスムーズにするための訓練を強化してサービスの充実を図った。一方、日常生活の中では、利用者間の障害の多様化による対人関係等のトラブルが増えているため、常に時間を割いて、個々への面談時間を設け、傾聴や受容等の支援を行い、利用者の心の安定を図った。同時に、個人情報の保護、虐待防止についての職員研修会を開催してコンプライアンスの徹底を図り、利用者の人権や主体性を大切にされた質の高いサービスの提供に努めた。

施設入所事業、短期入所事業は、利用者が安心して安全で快適な施設生活を送るための支援に努めるとともに、地域で暮らす障害者やその家族からのニーズに対し可能な限り応えるよう配慮した。

施設設備については、施設予算の中で行った停電時の非常灯更新工事の他、利用者女子トイレの改修工事等を行った。

地域における公益的な取組みとして、令和元年7月より「施設貸出規程」を定め、市内の県立高校や福祉村内の施設へ南側駐車場を貸し出した。また、地元住民を対象に施設の案内や福祉体験、スポーツ交流会等を実施した。

施設経営面では、収益の向上を図るため、利用者の確保や稼働日数を増やすほか、障害状況が重度化した利用者の支援区分の見直し調査等を逐次依頼するなど、きめ細かい取り組みの実践に努めた。また、ホームページにより事業所の事業実施状況等を公表するとともに、ホームページ内のブログによって日々の行事、就労作業及び生活状況の紹介を適宜更新するなど、積極的に情報発信を行い、事業活動の安定化に繋げた。

以下この一年の施設運営の概要を報告する。

就労事業支援	就労移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の就労ニーズに応えるため、施設内外での作業訓練と企業見学及び企業での実習を実施した。更に、ハローワークや障害者就業センター及び県就業支援センター等の関係機関と連携して就職に向けた支援に取り組んだ結果、1名の利用者が就職し、1名が就労継続A型事業所に移行した。 ○ 一般企業への就職者に対しては職場定着支援を行った。
	就労継続B型支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の適性を把握したうえで作業種目を決定し、作業の習熟度を高めるとともに、作業の入荷状況に合わせた人員配置等を行い、作業効率の向上に努めた。自主製品（図面袋等）については、ホームページの活用により県内外企業からの利用顧客数も安定している。しかし、協力企業であるダンボール会社の大手一社が吸収合併されたことにより、受注量が減少した。そのため、各協力企業からの新規作業受入及び作業量や単価調整等を行ったものの生産額を伸ばすことができなかった。 (前年比-1,631,715円) ○ 工賃の算定は、工賃会議において、個々の作業状況に応じた業績点の見直しを行い適正な評価に努めた。また、利用者の人数も安定しており、より生産性が望める作業を提供したが、高次脳機能障害等、重度の障害のある方が増加傾向であるため、工賃は平均時給で前年度を15円下回った。 【別紙①-1,2 就労支援実施状況】

生活介護事業支援	日常生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別支援計画に基づき、個々の目標に向けた支援を実施した。 ○ 1日又は半日の選択で生き甲斐としての作業活動を提供し、その対価として工賃を支給した。 ○ カラオケ・創作の他、外部講師（華道・絵手紙・3B体操・書道）による活動の充実を図り、9月に開催された障害者文化展に作品を出品した。 ○ 機能低下や二次障害防止のため、毎日の体操や週に2回（月・木）作業療法士による個別訓練や集団リハ等を実施した。 ○ 定期的な所外活動（美術館・リニア実験センター・ハイジの村見学、大型ショッピングセンターでの買い物等）による外出、日帰り旅行等を実施し、潤いのある生活を提供した。 ○ 施設敷地内にミニ菜園を作り、ミニトマト、キュウリ、ジャガイモ、サツマイモ、スイカ等を栽培、収穫することができた。また収穫した野菜を使い料理実習を行った。 ○ 寝具類（掛け布団、敷布団、枕）は、毎週木曜日にシーツ交換と必要に応じてクリーニングを行うことで、清潔で快適な生活が送れるよう支援した。 ○ 食事以外の間食コントロールが必要な方に対し、適切なおやつ提供を行うことで楽しみとコミュニケーションの場が提供出来た。 <p style="text-align: right;">【別紙② 生活介護 日中活動支援状況】 【別紙③ 統計】</p>
	社会活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者が積極的に社会活動に参加できるよう、招待や案内の情報提供を月一回開催の全体集会や掲示板等で積極的に行った。 ○ 活動の一環として、買い物等の外出支援、障害者文化展の見学を行った。
	家族との交流	<p>バーベキュー会、懇親会など施設の諸行事にご家族にも参加していただき利用者との交流を図った。</p> <p>また、交流の少ない家族については、電話や通知などにより利用者の近況を報告した。</p> <p>年度始めにはご家族向けに前年度の事業や施設行事等を掲載した広報誌を配布し、個別面談等を実施するとともに、家族間並びに職員との交流も図った。</p>
	地域生活移行支援	<p>施設入所者の地域移行を推進するため、本人及び家族の意向の相談受付等の体制はあるが、対象要件に合致する利用者がいなかった。</p>
利用者の健康管理／安全管理	健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃の健康状態、受診、検診等を把握し、適切な治療を受けられるよう健康の保持・増進に努めた。 ○ 耳鼻科受診を入所者全員に行ない、耳垢のある方は除去できた。 ○ 足の爪が伸びていることで痛みを伴い、足先に力が入らないため爪の手入れを行った。 ○ インフルエンザ感染、ノロウイルス感染は見られなかった。 ○ 新型コロナウイルス感染予防のため、朝の検温を実施した。 ○ 良肢位を保つことで食事時の誤嚥防止に努めた。 ○ 食事制限のある方はおやつ管理を行い、楽しみながら食生活を送れるよう支援した。 <p style="text-align: right;">【別紙④ 医務実施状況】</p>
	食事支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「楽しくバランスよく食べる」を給食管理の基本として、健康生活の源となる食事支援に努めた。 ○ 疾病及び障害の程度や年齢など、身体状況の個人差が大きいため、各個人に適した食事の提供が行えるよう配慮した。また、食事摂取が速い利用者も見られるため、咀嚼等に気をつけ、ゆっくり摂取するよう声かけ支援を行った。 ○ 毎食、肉や魚、パンや麺等好みの料理が選べるセレクトメニューを実施した。また、バーベキュー、まぐろまつり、にぎり寿司を行ったり、季節の鍋料理なども提供し、「食べよう」という意欲に繋げることができた。 ○ 食事を美味しく咀嚼していただくように、自助具の工夫をした。 ○ 年4回開催した給食委員会には、利用者と調理員も参加し、日々の食事内容や環境についての意見や要望が出され、給食に反映した。 <p style="text-align: right;">【別紙⑤ 給食実施状況】</p>

利用者の健康管理／安全管理	利用者の安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事故または事故に繋がる危険性がある行動や問題等に直面した場合、事故インシデント報告及び日誌等により、その内容を速やかに報告するとともに職員朝礼や安全対策会議等により対応策を協議し、情報の共有と再発防止に努めた。インシデントは43件、事故は13件が報告され主に転倒・誤嚥・無断外出であった。 ○ 外部からの侵入者に対し、不審者対応訓練を実施した。 ○ 緊急時に備え、AED（自動体外式除細動器）を事務室前に設置し、全職員がAEDを確実に操作できるよう研修を実施した。 														
	災害時の安全対策	<p>年間防災訓練計画に基づき、夜間訓練を含め年4回の訓練と専門業者による防災器具の法定点検の他、危険箇所等の自主点検も毎月実施し、職員及び利用者の防災意識を高めるとともに、安全で迅速な避難体制の確立を図った。</p> <p>訓練実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>訓練内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月11日</td> <td>防災訓練（火災）</td> <td>非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他</td> </tr> <tr> <td>9月2日</td> <td>総合防災訓練（地震・火災）</td> <td>非常放送・地震防護措置・避難誘導・消火・救護炊出・施設間の連絡、応援訓練他</td> </tr> <tr> <td>12月12日</td> <td>防災訓練（夜間火災想定）</td> <td>非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他</td> </tr> <tr> <td>3月12日</td> <td>防災訓練（夜間火災想定）</td> <td>非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	訓練内容	備考	6月11日	防災訓練（火災）	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他	9月2日	総合防災訓練（地震・火災）	非常放送・地震防護措置・避難誘導・消火・救護炊出・施設間の連絡、応援訓練他	12月12日	防災訓練（夜間火災想定）	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他	3月12日	防災訓練（夜間火災想定）
実施日	訓練内容	備考														
6月11日	防災訓練（火災）	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他														
9月2日	総合防災訓練（地震・火災）	非常放送・地震防護措置・避難誘導・消火・救護炊出・施設間の連絡、応援訓練他														
12月12日	防災訓練（夜間火災想定）	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他														
3月12日	防災訓練（夜間火災想定）	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他														
管理運営	施設の運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設ホームページの更新と活用により、施設利用を促進させると同時に、施設事業の実施状況をリアルタイムに発信した。 ○ 利用契約の際、利用者及び家族に対し当該事業の基本方針及び支援内容をわかりやすく説明するとともに、目標達成に向けた計画に基づいた支援を行った。 ○ 利用者の健康管理及び身体機能の維持・向上を目的として、看護師と作業療法士を中心に支援の充実に努めた。 ○ 施設事業の内容について、全体集会やオリエンテーション等で利用者への説明を行い、利用者の意向が反映できるよう支援を行った。 ○ <u>新型コロナウイルス感染拡大防止対策について、家族等に情報を提供しながら理解と協力を求めた。</u> <p style="text-align: center;">【別紙⑥ 事業実施状況】</p>														
	地域における公益的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>施設貸出状況：葦崎工業高校サッカー部：1回（南側駐車場 試合等）</u> <u>あけぼの医療福祉センター：8回（南側駐車場 研修会等）</u> ○ <u>地元老人会への施設案内他（ポッチャによるスポーツ交流）11月14日</u> ○ <u>地元小中学生への施設業務の説明会（福祉のお仕事体験）1月7日</u> 														
	苦情解決体制	<p>利用者が施設で提供している福祉サービスに対し苦情はないか、また苦情の申し出方法についての認識度や環境等が整っているか常に把握し、提供する福祉サービスの質向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>苦情受付件数(総数) 1件（職員に対する苦情）</u> ○ 苦情の内容（ア）と解決状況（イ） ア：<u>職員から衣服の調節について、「その服では暑くないですか？」と心外な言葉掛けがあった。自分なりにわかって着ているのに言われたことは非常に残念に感じた。コミュニケーション能力を高めてもらいたい。</u> イ：<u>職員会議で報告し、全職員に対して利用者への声掛けの仕方等コミュニケーション能力を高められるよう徹底することを約束し、納得をいただいで解決した。</u> ○ <u>第三者委員への報告</u> <u>令和元年5月23日（平成30年度分）に第三者委員会を開催した。</u> 														

管理運営	職員研修	福祉サービスの基盤である人材の育成と確保、さらには社会福祉法人の経営能力の向上が重要であることから、必要な研修会等に積極的に参加した。 また、研修参加者からの復命研修により、職員間での情報共有とスキルアップに努めた。			
		外部研修			
		開催期間	研修会名	場所	参加者
		5月10日	山梨県看護大会	甲府市	看護師
		6月4日	社会福祉施設初任者職員研修	甲府市	支援員
		6月26日	就業支援事業所研修会	韮崎市	支援員
		7月8日	峡北自立支援協議会事業所部会	韮崎市	支援員
		7月12日	帝京保育実習連絡協議会	北杜市	支援員
		8/2 9/25 10/25 11/19	相談支援従事者現任研修	甲府市	支援員
		8月8～9日	先進施設研修	神奈川県	支援員4名
		8月23日	給食施設関係者研修	韮崎市	栄養士
		9月10日	主任指導員研修	甲府市	支援員
		10月4日	安全運転管理者等研修	韮崎市	管理課長
		10月10日	障害者虐待防止・権利擁護実践研修	甲府市	支援員
		10月18日	障害福祉サービス経営セミナー	大阪府	管理課長
		10月29日	職場における感染症対策研修	甲府市	支援員
		11月12日	安全運転管理者法定講習	甲斐市	管理課長
		11月12日	歯と口の健康セミナー	甲府市	支援員
		11月19日	脳血管障害研修	甲府市	支援員
		12月3日	ハラスメントセミナー	東京都	所長
		12月3日	心や家族の問題への入り方研修	甲府市	支援員
		12月4日	発達障害者就労支援セミナー	甲府市	支援員
		12月13日	運動器疾患研修	甲府市	支援員
		12月17日	パワハラ・セクハラ研修	甲府市	支援員
		1月10日	峡北自立支援協議会事業所部会	韮崎市	支援員
		2月13日	工賃向上セミナー	甲府市	就労課長
		※2月下旬以降に予定されていた研修会等は、新型コロナウイルス感染防止のため、開催が中止となった。			
		法人研修			
		10月15日	救命救急講習①	アドバン	全職員
		11月5日	救命救急講習②	アドバン	全職員
	所内研修				
	4月24日	介護技術実践研修	施設内	全職員	
	5月29日	介護技術実践研修	施設内	全職員	
3月6日	不審者対応訓練	施設内	全職員		
個人情報保護	協会の定める個人情報保護規程に基づく「個人情報保護マニュアル」の周知・徹底を促し、利用者個人との接し方から外部来所者との関わりまで、職員の意識を高める取り組みを行った。また、利用者の個人情報を取り扱うことに対して、同意を得るための同意書確認を実施した。				

施設管理	施設管理	施設の保守管理に万全を期するとともに、安全・快適な環境を維持し利用者サービスの向上を図った。また、老朽化の著しい設備・備品等については、次のとおり必要な改善を行い、適切な施設管理に努めた。			
		1	倉庫・浴室・給湯室鍵の取替	平成31年	4月2日
		2	非常火災通報装置保守点検	平成31年	4月4日
		3	生活活動室テレビ・エアコン取付工事	平成31年	4月26日
		4	短期入所棟火災報知器取付工事	平成31年	4月29日
		5	山梨トヨペット送迎車両2台修理完了	令和元年	6月30日
		6	Hブロック乾燥機更新	令和元年	7月16日
		7	浴室タイル張替工事	令和元年	8月22日
		8	水道ポンプ室内計器修理	令和元年	9月17日
		9	Aブロック乾燥機更新	令和元年	10月4日
		10	Y-2居室雨漏り防水工事	令和元年	11月25日
		11	利用者女子トイレ改修工事	令和元年	12月23日
		12	非常灯バッテリー交換工事	令和2年	1月8日
		13	キューピクル内変圧器交換工事	令和2年	1月18日
14	山梨県介護ロボット等支援補助事業による床走行式電動リフト購入(サリフトミニ)	令和2年	3月31日		
地域支援	短期入所	定期的な利用や比較的長期利用もあり、19人の利用者が延べ1,293日1日平均3.6人の利用をいただき、利用者個々の利用ニーズに応えることができた。特に休日の利用希望者が多く調整することもあった。支援にあたっては、利用者の障害や支援状況に応じて利用する居室の場所等を配慮し、安心して生活が送れるように努めた。			
	地域交流	地域の構成員として、利用者が地域の方々と好ましい関係をつくり、社会参加の促進を図るには、施設の機能を地域に活用していただく等、地域との連携が必要なことから次の事業を実施した。 ① 納涼会(盆踊り会)に地元老人会・婦人会を招待して楽しく交流を図った。 ② サッカーJ2リーグの招待を受け観戦した。			
	峡北地域自立支援協議会	自立支援協議会韮崎通所グループの事業所部会に所属し、事業所間での問題点や福祉を取り巻く制度についての勉強会等に参加した。			
	実習生の受入れ	福祉人材養成を目的とした大学等からの社会福祉援助技術現場実習や支援学校生の職場実習先として幅広く受入れ、福祉人材の育成と障害児・者の進路支援機関として積極的に協力した。			
		実習依頼先	人数	期間	目的
		わかば支援学校	4人	5月16日～31日	現場(職場)実習
あけぼの支援学校		1人	6月3日～7日	現場(職場)実習	
韮崎東中学校1年生		32人	6月13日	福祉体験学習	
わかば支援学校		4人	9月10日～27日	現場(職場)実習	
あけぼの支援学校		1人	11月5日～6日	現場(職場)実習	
武川中学校1年生		14人	11月8日	福祉体験学習	
國學院大學		1人	11月18日～22日	資格取得実習	
帝京学園短期大学		1人	12月2日～17日	資格取得実習	
在宅障害者	1人	1月15日～17日	就労アセスメント実習		
受入者数 計59人					
ボランティア等の受入れ	閉鎖的になりがちな入所施設においてボランティアの受入れは、利用者と地域との相互交流と連携を深める貴重な機会であり、生活のアクセントとしても重要なイベントであることから、積極的にボランティアの受入を行った。 【別紙⑦ 令和元年度 見学・ボランティア受入状況】				